

新刊
案内

マニフェストへの固執が招いたダム問題の混乱——。
ダムの本来あるべき姿、その真実に迫る。

ダムは本当に不要なのか

— 国家百年の計からみた真実 —

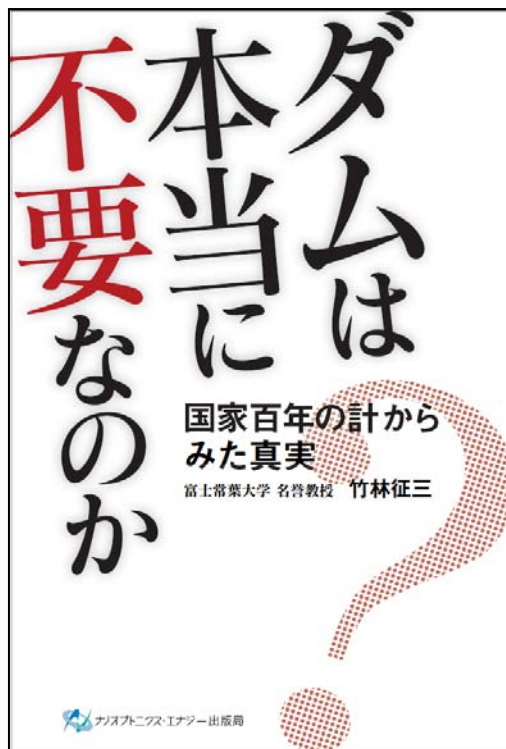
富士常葉大学名誉教授・工学博士 竹林 征三 著

政権交代によって、「コンクリートから人へ」や「緑のダム」といったことをキャッチフレーズにして、ハツ場ダムの建設中止の方針が打ち出された。これには地元住民、各自治体もその方針には反対を唱えているにもかかわらず、政権公約（マニフェスト）だからなにがなんでも中止だと、反対意見を取り入れようとしない。

本書では、このような「ダム無用論」について技術的検証に基づいた理論で本当の真実はどうなのかを様々な側面から検証している。国土の治水総合対策として、災害から人の生命と財産を守り、安心安全な社会をつくりあげるため、国家百年の計で、治水、利水、発電、渇水、水質、環境など、国土の水資源対策に関する取り組みが行われてきた。つまり、歴史的事実に基づき、いままで先人の知恵と経験によって、どのように国土が守られてきたのか、そのひとつひとつの事実を検証している。

果たして本当にダムはムダなのか、それとも有用なのかを改めて検証し、今後の指針としたい。

ダム賛成派、反対派の両者にその必要性を問い質す——。



予定価格：1800円（本体価格）＋税
発行：ナノオプトニクス・エナジー出版局
発売：近代科学社
発行日：2010年10月10日
体裁：4/6判 240頁

【問い合わせ先：発行元】 ■（株）ナノオプトニクス・エナジー出版局
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-7-15 (株)近代科学社内
TEL 03(5227)1058 FAX 03(5227)1059

『ダムは本当に不要なのか—国家百年の計からみた真実—』目次

まえがき——ダム建設の賛否を改めて問う

第1章 国家百年の計からみたダム問題の背景

土木の「つもり違い」十か条／『災害』の2004（平成16年）年を振り返る／ダムの効果は歴然・備えあれば憂いなし／日本を襲う四つの気候異変／食糧自給と水問題／国家百年の計を弄んではならない／嘘でも三度新聞に載れば人は信ずる／専門家を拒む社会の危うさ

第2章 ダムと洪水

年々危険増す天井川の宿命／河川管理の難しさ、終わりなき治水事業／「面の治水」から「線の治水」そして「点の治水」／大宝律令から「土堤の原則」へ／愚者は己の体験に学び、賢者は歴史に学ぶ／国家百年の計と暫定計画／琵琶湖の苦悩・洪水と渇水／宿命の対決、洗堰全閉／ヒマラヤ以上の大山脈列島／天然ダムと河道閉塞／地震に起因する天然ダム／豪雨に起因する天然ダム／天然ダムと河川計画／昨日の澁・今日の瀬／火山噴火と河床変動／破堤の輪廻からの脱却／越水すれども破堤せざるの幻／「切れない堤防」の「まぼろし」／水防活動の知恵／設計における余裕の重要性／道路の路側帯・ブレーキの遊び／堤防・充填強化策の愚か／頼りありそうで頼りなきもの

第3章 ダムと水資源の確保

ダムの開発水量は実質的に目減り／建前の「水余り」と実質「水不足」／石油備蓄と水

備蓄一水を輸入する不思議な国／利根川の利水安全度を憂う／水利権の表記を見直せ／利根川の水不足は深刻／木曾川水系の渇水は深刻／なぜ1994（平成6年）年渇水に備えないのか／清流復活の切り札・ダム建設／1994（平成6年）年全国渇水と回顧／プロの先見・アマの後追い

第4章 ダムと環境問題

近代ダム建設は環境衛生対策から始まった／「緑のダム」の幻と罪／ダム建設と鳥獣保護区／日本と欧米の違い—ダム建設と漁獲量の変化／「環境賞」に輝く箕面川ダム／死の川を蘇えらせた金字塔「品木ダム」／土木技術者の「土木魂」と「本懐」

第5章 ダムの経済効果

急がれる河川の経済評価法の確立／便益計算でなぜ過小評価するのか

第6章 ハッ場ダム現下の課題

ハッ場ダム中止と治水代替案／ハッ場ダム中止と利水代替案／ハッ場ダム中止と流域総合治水の限界

第7章 終章

真髓を大局的に捉える大きな知恵／ダムサイトは神様からの贈り物／世界の常識・日本の非常識／専門家のいない専門家会議／緊急課題・带状裸地をなくせ／クリーン・エネルギーとしての水力発電／ペンローズの三角形

おわりに—ダムは本当に無駄なのか